



平成26年8月18日（月）

埼玉県内の4大学による、連携力の高い専門職育成の取組み  
彩の国連携力育成プロジェクト 4大学連携 IPW 実習が始まります

埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学は、文部科学省の補助事業「大学間連携共同教育推進事業」の採択を受け、共同教育事業「彩の国連携力育成プロジェクト」に取り組んでいます。



①施設利用者へインタビュー



②ケアプランの検討



③最終日の報告会

このプロジェクトも今年で3年目を迎えますが、その取組の一つ、「4大学連携 IPW（Interprofessional Work: 専門職連携実践）実習（試行※）」も3回目の実施となります。

今年度は、8月25～28日の4日間にわたり埼玉県内10か所の医療機関や福祉施設で4大学合計60名の学生の参加により行われます。

実習では、医師・看護師・薬剤師・建築士などの専門職を目指す4大学の学生が混合チーム（1チーム6名程度）を組み、はじめに施設利用者や各施設の専門職の職員に対しインタビュー①を行います。それをもとに、4大学の学生がお互いの専門性を理解し合いながらケアプランを作成②し、最終日には各チーム同士で取組結果の報告③を行います。

異なる専門職を目指す学生同士が、利用者・集団・地域の理解と課題解決のプロセスを体験することで多職種間の「連携と協働」の必要性を学びます。

私たち4大学はこれらの取組を通じて、「連携力の高い専門職」を育成することにより、地域社会に貢献していきたいと考えております。

※ 埼玉県立大学では26年度から正規科目化されています。他大学も正規科目化へ向けて試行中です。

ホームページ（SAIPE）<http://www.saipe.jp/>

ニュースレターのバックナンバーの他、随時情報発信中です！

記者発表先		県政記者クラブ、越谷市政記者クラブ		
担当	部署・学科	企画担当	氏名	三森 謙二
	電話番号	048-973-4715	e-mail	kikaku@spu.ac.jp

## 【別添資料】

～彩の国連携力育成プロジェクトとは～

このプロジェクトは、看護師、理学・作業療法士、社会福祉士、臨床検査技師、歯科衛生士（埼玉県立大学）、医師（埼玉医科大学）、薬剤師（城西大学）、生活空間デザイナー（日本工業大学）などの専門職を養成している4大学が共同して専門職連携教育（Interprofessional Education）を構想・試行し、正規科目化を目指す取組です。私たち4大学は多職種の連携によって課題を発見し解決できる人材の育成を行い、専門職連携（Interprofessional Work）によって地域住民の質の高い暮らしを支えることのできる地域社会づくりに貢献していきます。

（今年度の4大学連携 IPW 実習施設一覧）

施設名	郵便番号	住所
自治医科大学附属さいたま医療センター	330-8503	さいたま市大宮区天沼町 1-847
医療生協さいたま秩父生協病院	368-0016	秩父市阿保町 1-11
国民健康保険町立小鹿野中央病院	368-0105	秩父郡小鹿野町小鹿野 300
介護老人保健施設ピッラ・ベッキア	368-0056	秩父市寺尾 2744
医療法人社団東光会東所沢病院	359-0013	所沢市城 435-1
介護老人保健施設カノープス・羽生	348-0051	羽生市本川俣 1305
社会医療法人社団新都心医療研究会[関越会] 関越病院	350-2213	鶴ヶ島市脚折 145-1
医療法人社団満寿会鶴ヶ島在宅医療診療所	350-2223	鶴ヶ島市高倉 772-1
介護老人保健施設鶴ヶ島ケアホーム※	350-2213	鶴ヶ島市脚折 1877
社会福祉法人毛呂病院光の家療育センター	350-0495	入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

※ 介護老人保健施設鶴ヶ島ケアホームのみ、25～27日の間実習の様子を取材できます。現地取材をされる場合は調整させていただきますので事前に埼玉県立大学企画担当（Tel：048-973-4715 までご連絡ください。）

（昨年度の4大学連携 IPW 実習に参加した学生の感想一部抜粋）

- 埼玉県立大学看護学科 Kさん  
3日間の実習を終えて、今まで感じたことのない多職種と関わることの驚き・気づき・発見があり、とても充実した実習となった。始まる前は不安や緊張などもあったが、今後は看護師として働くために自分の専門性を高めてチームの一員として関われるよう努力していきたい。
- 埼玉医科大学医学部医学科 Iさん  
他人を完全に理解しあうことは難しい。衝突だっておこる。しかし、私は患者さんを思うがゆえの衝突だったらいくら起こってもいいじゃないかと思った。IPW演習でのグループ討論は、チーム医療の真骨頂だと感じた。
- 城西大学薬学部 Kさん  
同じ医療の場にいる者同士なのにお互いのことをこんなにも分かっていなかったということを感じた。これはIPW実習を実際に行ってみて初めて気づいたことであって、それぞれの専門分野の実習だけでは気付くことができないことだった。
- 日本工業大学生活環境デザイン学科 Aさん  
この実習では総合的に、医療福祉面での連携・協働に触れていたが、医療福祉にかぎらず全く違う場所でも、チーム形成や相互理解、物事を別の視点から見てみるということがとても役立つ気がした。是非とも正式なカリキュラムとして各大学に取り入れてもらいたい。